

1. 評価結果概要表

平成 20 年 8 月 11 日

【評価実施概要】

事業所番号	0170400865		
法人名	有限会社ユーアステス		
事業所名	グループホーム Myほ〜む童里夢		
所在地	札幌市西区平和3条7丁目8番1号 電話 011-663-8808		
評価機関名	北海道シルバーサービス振興会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目かでの2. 7		
訪問調査日	平成20年7月9日	評価確定日	平成20年8月11日

【情報提供票より】 (20年6月4日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	15年7月1日
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計 9 人
職員数	8 人	常勤7人, 非常勤 1人, 常勤換算 4 人

(2) 建物概要

建物構造	SRC 造り
	3階建ての 2～3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000～65,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	有 無	暖房費	8000円	
保証金の有無(入居一時金含む)	有 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (6月4日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	2	要介護2	4		
要介護3	1	要介護4	2		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 80歳	最低	70歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	幌南病院・美園いとう内科・松永内科・円山リラクリニック・ときわ病院・南1条病院・ターミナル歯科・北見外科・清明館診療所
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

中古住宅改造型であるが、事業所の雰囲気や各居室の形態は高級感溢れる造りである。食堂など利用者と職員が使用するには手狭な点があるにもかかわらず、創意と工夫で、和やかに和気あいあいと楽しく笑顔があふれる住まいとなっている。利用者と職員が2泊の旅行を実施するなど、その取り組みは評価に値する。事業所全体が明るく意欲的で、利用者と職員が出来る範囲で協働作業を行い、役割を持ちつつ、仲良く地域の中で自然体で暮らしている事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	地域密着型サービスとしての事業所づくりをベースに、改善に向けて「ホームたより」の事、研修の確保、プライバシーに関する事、災害対策など、全職員で改善に向けての努力をしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価及び外部評価に対して、全職員で課題に向けて具体的に取り組みを行っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1度定期的に運営推進会議を開催し、地域との関わりが深くなり、ピアノ講師がボランティアとして事業所に積極的に訪問して下さり、利用者の楽しみとなっている。その他にも、活発な意見交換があり幅広い層からの参加をいただき、事業所の理解が深まりつつある。さらに災害訓練への取り組みを期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	事業所からは「ホームたより」の発行に、面会時の家族との対話や運営推進会議などを通じて、利用者の状況を報告している。家族とは意見箱の利用に、面会時の対話などで気楽に話せる関係を築いている。家族の希望で宿泊旅行を実施している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	敷地内の畑作業に、春・夏・秋の収穫までの手入れを地域住民に協力をお願いし、事業所の利用者も一緒に参加している。日常的に散歩時の声かけなど親しい関係を築いている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所は、地域密着型サービスの意義を考え、地域の信頼を得ると共に、明るい事業所づくりを目指した理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、日頃から理念を目標にし、その具現化に向け取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所では敷地内の畑作業に近隣の住民の協力を得て、種まきなど共に行い、交流の場を持っている。さらに収穫時やその他の行事にも、日常的に親しい関係が築かれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び、外部評価に対して、全職員が課題に向けて具体的に取り組んでいる。前回の評価結果についても、職員研修などで改善に向けて努力している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催されている運営推進会議は幅広い領域から委員の参加があり、サービスの実際を報告し、意見交換が活発に行われ、ケアに活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月の管理者会議では行政の担当者と連携をはかり、適切な指導や助言を得て運営に活かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「ホームたより」を発行し、利用者の様子を報告している。また、病院との関係などは、状況に応じて情報提供に努めており、家族の信頼を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは気軽に意見が言える関係作りに努め、面会時には出来るだけ話しを聞き、家族から出された意見・要望などを検討し、サービスに活かす取り組みをしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の交替が多い現状であるが、出来るだけ利用者に影響がないように、新任を含めて職員間で補い、細かい配慮をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には可能なかぎり職員の参加を促し、後日研修報告を行なっている。また、毎月課題を決めて研修の場を設定し、働きながら自己研鑽に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内にある同法人の事業所と合同のレクリエーションを開催し、職員のみならず、利用者も交流をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	特に事業所の建物の構造や雰囲気を理解して頂く為にも、本人と家族の見学や体験を重視しており、馴染みの関係づくりへの配慮や工夫が見られる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は一方的な縦の関係でなく人として「ともに過ごし、学び、支えあう」間柄を目指して努力している。利用者とは笑顔がたくさん見られる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、常に利用者の表情や行動を把握し、困難を克服し、工夫と努力で本人本位に支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	達成感や充実感を尊重した支援を職員全員で話し合い、利用者や家族の意見を反映した、利用者本位の介護計画を作成し、実現に向けて取り組んでいる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のカンファレンスで介護計画について無理がないか検討し、現状に即した介護計画を作成し、見直しを行っている。また、家族と連絡を密にし、協働で作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日常的な通院介助などと年に1度の宿泊旅行など利用者本位に柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看護師職員が利用者の健康に配慮をし、それぞれのかかりつけ医師と連携を取り、適切な医療を受けられるように支援している。事業所に来る往診医も確保している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所独自に「医療連携体制指針」を作成し、内容について家族の了解を得ている。重度化の取り組みについては研修の課題として方針の共有化を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを尊重し、対応や話しかけなど配慮をしている。記録はパソコンを最大限活用し、個人情報の管理の徹底が図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者に寄り添うことに努め、出来る限り一人ひとりのペースを活かした支援をしている。集団で行う体操など、明るく楽しく無理なく希望に沿ってケアしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は利用者の状態に合わせて、参加できる場面で、盛り付け、配膳、「いただきます」や後片付け、食器あらい、茶碗ふき、食器の始末など活発に家事に参加している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人や家族から習慣や好みなどを聞き、その人らしさに合わせて、おおよそ週に2回のペースで入浴支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の得意分野を把握して力が発揮できるような場面づくりに努め、感謝の言葉を添えている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所の敷地内に畑や花壇があり、日常的に外出気分を味わうことができる。戸外の行事も積極的に計画を立て、年に1度の外泊旅行など多くの企画が実行されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にセンサーを設置したり、職員の細かい気配りで施錠することなく、開放的な事業所運営を行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1度、避難訓練を実施している。地域住民との連携もできつつあるが、まだ、充分とは言えない。	○	地域住民の協力を得て、日中帯は勿論、夜間も想定した避難訓練の実地を期待したい。災害対策の基本としてマニュアルを整備し、訓練実施の記録も作成し、見やすい位置に配置する事が望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立作成と食材購入については、業者利用でバランスの良い食事を提供している。また、水分や食事摂取量は毎回把握をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	戸建住宅を利用しており、内外ともに装飾や雰囲気作りなど、利用者本位に考え様々な工夫や配慮がされている。利用者にとって居心地よく過ごせる馴染みの場所となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室、洋室、様々な形態で、個別に工夫があり、落ち着いて過ごせる居場所になっている。		

※  は、重点項目。